



印西市議会議員

# こんにちは！ ますだようこです

series2 vol.9

発行/増田葉子 2017.8.10 印西市内野2-1-6-202 TEL080-5082-0970 Fax0476-46-6809 e-mail/YFA49624@nifty.com  
ホームページもご覧いただけます <http://www.masuda-yoko.com>

6月定例議会(6/2～6/22)の議案と市政への私の視点、一般質問の内容をご報告します。

## 6月議会の議案

### ①条例改正 1件

「保育事業の運営基準を定める条例」／子ども・子育て支援法施行規則の改正で、保育を申請した際に発行される「支給認定証」が任意発行となり、市の条例に反映された。

### ②補正予算 2件

- ・一般会計／新設保育園(牧の原地区、定員80名、来年度開園予定)整備負担金、障がい者サポートセンター整備費などで、1億4,561万円を追加する増額補正。
- ・介護保険特別会計／新設の地域包括支援センターに高齢者台帳を整備する経費で830万円を追加する増額補正。

### ③契約の締結 1件

小倉台小学校の校舎増築工事の契約。2億3,652万円で上村建設株式会社(我孫子市)が受注。

### ④財産取得 2件

- ・市役所職員が使用するパソコン220台及びソフトウェアを4,963万円で(株)大塚商会から購入。
- ・消防団配備の小型ポンプ積載車3台を、2,557万円で大成産業(株)から購入。更新計画では、あと14台の更新が必要。

### ⑤報告 5件

繰越明許費の報告3件、道路瑕疵などによる車両の損傷の損害賠償金が2件。

### ⑥人事の同意 1件 議会選出の監査委員に同意。

### ⑦発議 2件

- ・「政務活動費交付条例」一部改正／会計報告の期限を変更。
- ・議会改革推進特別委員会を設置。

## 国庫補助金の動向

5月に議長選のための臨時議会があり、今議会の議案数はこれまでにないくらい少なかったのですが、その中でもっとも気になったのは、上記②の補正予算で、一般会計の都市建設・土木系の国庫補助金が大幅に削られたことです。それによって当初予算に盛り込まれていた新規の道路建設、道路補修の工事が大幅に先送りされました。

新設では、松崎工業団地から船尾で県道千葉龍ヶ崎線に交差し、県道船橋印西線につながる市道26号先線が一年延期

され、道路面の劣化によって舗装の打替えが予定されていた高花プラタナス通りや岩戸の市道1-2号線の2路線の工事が翌年度以降に繰り延べになりました。

こうした公共事業の補助金は、前年の夏～秋に概算・本要望をし、新年度に正式に配分額が決まります。これまでは要望額の半分程度は配分されていましたが、ここ数年徐々に低減し、今年度の配分は新設33%、生活道の補修は15%程度に留まりました。この先、配分が増えるとは考えられず、延期された工事が必ずしも来年度にできる保証もありません。

## 補助金待ちで市民は待ちぼうけ

つい補助金と言ってしまいますが、今の名称は「交付金」です。長年にわたる行革や地方分権の議論の中で、省庁ごとの重複のムダを減らし、使い勝手が良いように補助金の「一括化」が進められ、交付金になりました。耳なじみがあるのは、前市長時代に木下駅整備などに活用された「まちづくり交付金(現在は社会資本整備総合交付金)」でしょうか。前市長はよく「事業をやる時はまず財源を探せ」と言っていました。

交付金は頻りに補助率や交付対象の変更があって、新しい給食センターは交付対象になりませんでした。客観的にみるとすでに財源として「あてにならない」ことが多いのではないかと思います。昔の名残りが無いよりマシと思うのか、補助金に左右される「補助待ち」の実態に今回直面したような気がします。

交付金は国の事情でかわります。あてにならない財源の有る無しにかかわらず、市民生活に必要な事業は着実に実施する姿勢であってほしいと思います。

## 議会報告会 開きます!

6月議会のご報告と自由な意見交換の場です。市政へのご質問、ご意見をお待ちしています。お気軽にご参加ください。

8月20日(日) 13:30～16:30  
中央駅前地域交流館2号館 会議室3

暮らしの心配事、福祉のご相談、随時お受けします。  
社会福祉士 登録206337号 増田葉子

6年連続  
住み良さ日本一

## 印西市の「売り」は何？

人口が減少していくなか、都市間で人を奪い合う時代です。若い世帯に選んで住んでもらうにはどんな施策が必要か、どの市も知恵を絞っています。印西市でも、定住人口を増やす政策として、昨年3月に「シティセールスプラン」を策定しました。実施計画を策定中のはずですが、具体的にどんなことをやろうとしているのでしょうか。

私の質問	市長、担当部長の答弁
実施計画はどうなっているか？	現在、策定中で、今年度中に出来る予定だ。
策定に丸2年かかっているが、最初からの予定だったのか？	着手はしたが、事業の検討に時間を要した。
じっくりと時間をかけている分、良い計画になることを期待したい。現段階で決まっている事業は？	キャッチコピー「ずっとこのまち印西で」の活用、プロモーションムービーの活用など検討している。
プロモーションムービーの中身を知りたい。印西市は 何を「売り」にするのか？	市民の声としては、自然環境、都市機能について評価されていると考える。
近隣でも豊かな自然と都市機能を打ち出しているところは多い。他にはない印西市を特徴づけるものは何か？	印西市の魅力は、里山環境と水辺の景観の一方で、都心へも便が良いこと。魅力を発信していきたい。

残念ながらいくら質問しても具体的な中身が出てきません。そこで私案。松山下総合体育館には、スポーツクライミングのリード競技のウォールがありますが、あれでは中途半端。スポーツクライミングは3競技で競うので、リードの他にボルダリング、スピード用のウォールが必要です。どうせならボルダリングとスピードのウォールを新たにつくってはどうか。東京五輪の正式種目になり競技人口も増えています。「スポーツクライミングといえば印西」というシティセールスになります。

私の質問	市長、担当部長の答弁
印西市の「売り」を生み出すには、職員一人一人が、目の前の仕事をどうしたら日本一にできるか考えていくことだと思う。どんな推進体制となっているのか？	職員一丸となって取り組んでいきたい。
むしろ一丸とならずに、一人一人の工夫やアイデアを応援できる組織、推進体制であってほしいが、どうか？	事業評価や検証も実施するので、職員の意識啓発にもつながると考える。

一丸となるのは決して悪いことではありませんが、シティプロモーションにおいては、職員一人一人がそれぞれ面白いと思うことを認めていける風通りのよい組織である必要があります。職員自らが「6年連続住み良さ日本一」と全国に胸をはれる行政になってほしいものです。

## 「子ども発達センター」の人的充実を

すべての子どもに  
健やかな育ちを

一昨年、子ども人口の急増で「子ども発達センター」のキャパシティが危機的状況にあるのではないかと質問しました。障がい者自立支援法の施行以来、「子ども発達センター」のもっとも大事な役割は療育相談にあると思いますが、印西市は、発達に心配のある未就学児の通園施設としての役割のまま、対象年齢が見直されていません。早急に18歳まで対応できるように見直す必要がありますが、現状はどうなっているのでしょうか。

私の質問	市長、担当部長の答弁
昨年度と今年度の利用登録者数と職員配置数は？	昨年度の利用登録者は141名、今年度も昨年度並みの見込み。今年度は常勤職員を2人増員し、療育相談事業の専門職は外部講師に依頼している。
一番大事な療育相談を外部に頼っているのはどういうことか？	言語聴覚士（ST）は2名いるが、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）は配置していない。
療育相談は言語だけでなく、理学療法や作業療法上の支援が欠かせない。配置していないのはなぜか？	近年、さまざまな部署に専門職が必要になってきている。必要に応じて配置している。
こんな恥ずかしい状態で「安心して子育て」などとても言えないのではないか。	様々な子育て支援施策は行っているが、今後も安心して子育てできる環境づくりに取り組んでいきたい。
専門職をちゃんと配置して、療育相談の充実を図り対象年齢を引き上げてほしいが、どうか？	就学前から卒業後の自立に向けた一貫した支援は重要である。必ず支援体制の強化に努めていきたい。